



EXEC Show モードの Cisco ISE CLI コマンド

この章では、EXEC モードで Cisco ISE 設定の表示に使用する最も便利なコマンドの 1 つである **show** コマンドについて説明します。この章では、コマンドごとに、その使用方法の簡単な説明、コマンドの構文、使用上のガイドライン、および使用例を示します。



(注) Cisco ISE リリース 3.0 以降では、特定の show コマンドの実行後にエスケープ文字が必要な場合は、Ctrl+C を押してから Q を押します。

- [show](#) (3 ページ)
- [show application](#) (4 ページ)
- [show backup](#) (7 ページ)
- [show banner](#) (9 ページ)
- [show cdp](#) (10 ページ)
- [show clock](#) (12 ページ)
- [show container](#) (13 ページ)
- [show cpu](#) (18 ページ)
- [show crypto](#) (21 ページ)
- [show disks](#) (22 ページ)
- [show icmp-status](#) (24 ページ)
- [show interface](#) (26 ページ)
- [show inventory](#) (28 ページ)
- [show ip](#) (30 ページ)
- [show ipv6 route](#) (31 ページ)
- [show logging](#) (32 ページ)
- [show logins](#) (35 ページ)
- [show memory](#) (36 ページ)
- [show ntp](#) (37 ページ)
- [show ports](#) (38 ページ)
- [show process](#) (40 ページ)
- [show repository](#) (42 ページ)

- `show restore` (44 ページ)
- `show running-config` (45 ページ)
- `show snmp engineid` (47 ページ)
- `show snmp user` (48 ページ)
- `show startup-config` (49 ページ)
- `show tech-support` (51 ページ)
- `show terminal` (53 ページ)
- `show timezone` (54 ページ)
- `show timezones` (55 ページ)
- `show udi` (56 ページ)
- `show uptime` (57 ページ)
- `show users` (58 ページ)
- `show version` (60 ページ)

show

実行システムの情報を表示するには、EXEC モードで **show** コマンドを使用します。

show keyword

コマンド デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード EXEC

コマンド履歴	リリース	変更内容
	2.0.0.306	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン すべての **show** コマンドは、機能するために少なくとも 1 つのキーワードが必要です。

例

```
ise/admin# show application
<name>          <Description>
ise             Cisco Identity Services Engine
ise/admin#
```

show application

システムにインストールされているアプリケーションパッケージを表示するには、EXEC モードで **show application** コマンドを使用します。

show application > *file-name*

show application [status {*application_name*}]

show application [version {*application_name*}]

構文の説明

>	出力をファイルにリダイレクトします。
<i>file-name</i>	Cisco ISE アプリケーション情報を保存するファイルの名前。
status	インストールされているアプリケーションのステータスを表示します。
version	インストールされているアプリケーション (Cisco ISE) のアプリケーションバージョンを表示します。
<i>application_name</i>	インストールされているアプリケーションの名前。
	出力修飾子変数 <ul style="list-style-type: none"> • begin : 一致するパターン。最大 80 文字の英数字をサポートします。 • count : 出力の行数をカウントします。単語 count の後に数字を入力します。 : count の出力修飾子変数。 • end : 一致する行で終了します。最大 80 文字の英数字をサポートします。 • exclude : 一致する行を除外します。最大 80 文字の英数字をサポートします。 • include : 一致する行を含めます。最大 80 文字の英数字をサポートします。 • last : 出力の最後の数行を表示します。単語 last の後に数字を入力します。80 行までの表示をサポートします。デフォルトは 10 行です。 : last の出力修飾子変数。

コマンド デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード EXEC

コマンド履歴	リリース	変更内容
	2.0.0.306	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン システムにインストールされているパッケージに関するアプリケーションステータスとバージョンを表示するには、**show application** コマンドを使用します。

例 1

```
ise/admin# show application
<name>          <Description>
ise             Cisco Identity Services Engine
ise/admin#
```

例 2

```
ise/admin# show application version ise
Cisco Identity Services Engine
-----
Version       : 1.3.0.672
Build Date   : Thu Jun 19 19:33:17 2014
Install Date : Thu Jun 19 21:06:34 2014
ise/admin#
```

例 2

```
ise/admin# show application version ise
Cisco Identity Services Engine
-----
Version       : 1.4.0.205
Build Date   : Tue Mar 3 05:37:10 2015
Install Date : Tue Mar 3 21:06:34 2015
ise/admin#
```

例 3

CiscoISEではオプション（ペルソナベース）でプロセスのステータスが表示されます。pxGrid、Certificate Authority、M&T、Identity Mapping Serviceなどのプロセスは、次の状態のいずれかになります。

- 実行中（Running）：Cisco ISE サービスは稼働中です
- 実行していない（Not Running）：Cisco ISE サービスはシャットダウンされています
- ディセーブル（Disabled）：Cisco ISE サービスはディセーブルです

```
ise/admin# show application status ise
ISE PROCESS NAME          STATE          PROCESS ID
-----
Database Listener        running        3688
Database Server          running        41 PROCESSES
Application Server       running        6041
```

show application

```
Profiler Database           running      4533
AD Connector                running      6447
M&T Session Database       running      2363
M&T Log Processor          running      6324
Certificate Authority Service running      6263
pxGrid Infrastructure Service disabled
pxGrid Publisher Subscriber Service disabled
pxGrid Connection Manager  disabled
pxGrid Controller           disabled
Identity Mapping Service   disabled
ise/admin#
```

show backup

システムのバックアップ履歴またはバックアップのステータスを表示するには、EXEC モードで **show backup** コマンドを使用します。

show backup [history | status]

構文の説明

history	システム上のバックアップに関する履歴情報を表示します。
progress	システム上のバックアップ ステータスを表示します。

コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード

EXEC

コマンド履歴

リリース	変更内容
2.0.0.306	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

システムのバックアップ履歴とステータスを表示するには、**show backup** コマンドを使用します。

例 1

```
ise/admin# Show backup history
Wed Apr 10 02:35:29 EDT 2013: backup mybackup-CFG-130410-0226.tar.gpg to repository
myrepository: success
Wed Apr 10 02:40:07 EDT 2013: backup mybackup1-OPS-130410-0239.tar.gpg to repository
myrepository: success
ise/admin#
```

例 2

```
ise/admin# show backup status
%% Configuration backup status
%% -----
%      backup name: mybackup
%      repository: myrepository
%      start date: Wed Apr 10 02:26:04 EDT 2013
%      scheduled: no
%      triggered from: Admin web UI
%      host: ise.cisco.com
%      status: backup mybackup-CFG-130410-0226.tar.gpg to repository myrepository:
success
%% Operation backup status
%% -----
%      backup name: mybackup1
%      repository: myrepository
%      start date: Wed Apr 10 02:39:02 EDT 2013
%      scheduled: no
%      triggered from: Admin web UI
```

show backup

```
%          host: ise.cisco.com
%          status: backup mybackup1-OPS-130410-0239.tar.gpg to repository myrepository:
          success
ise/admin#
```


show banner

ログイン前バナーおよびログイン後バナーを表示するには、EXEC モードで **show banner** コマンドを使用します。

show banner [post-login | pre-login]

バナーは、Cisco ISE GUI の次のウィンドウで設定します。

[管理 (Administration)] > [システム (System)] > [管理者アクセス (Admin Access)] > [設定 (Settings)] > [アクセス (Access)]。[セッション (Session)] タブには、Cisco ISE CLI および GUI のログイン前後のバナーを設定するためのフィールドが含まれています。

構文の説明	post-login	現在の CLI セッションの Cisco ISE サーバーで設定されている後の情報が表示されます。
	pre-login	現在の CLI セッションの Cisco ISE サーバーで設定されている前の情報が表示されます。
コマンドデフォルト	デフォルトの動作や値はありません。	
コマンドモード	EXEC	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	2.0.0.306	このコマンドが導入されました。
使用上のガイドライン	アクティブな SSH セッションで show banner コマンドを使用します。アクティブな SSH セッションが Cisco ISE 管理者ポータルで設定された [最大同時セッション数 (Maximum Concurrent Sessions)] を超えた場合、「警告：最大アクティブ SSH セッション数に到達 (WARNING: Maximum active ssh sessions reached)」メッセージが表示されます。	

show cdp

有効になっているすべての Cisco Discovery Protocol (CDP) インターフェイスに関する情報を表示するには、EXEC モードで **show cdp** コマンドを使用します。

show cdp [all | neighbors]

構文の説明

all	イネーブルになっているすべての Cisco Discovery Protocol インターフェイスを表示します。
neighbors	Cisco Discovery Protocol ネイバーを示します。

コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード

EXEC

コマンド履歴

リリース	変更内容
2.0.0.306	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

イネーブルになっている Cisco Discovery Protocol インターフェイスおよび CDP ネイバーを表示するには、**show cdp** コマンドを使用します。



(注) CDP は、隣接する IPv4 および IPv6 インターフェイスから視覚化できます。

例 1

```
ise/admin# show cdp all
CDP protocol is enabled...
    broadcasting interval is every 60 seconds.
    time-to-live of cdp packets is 180 seconds.
    CDP is enabled on port GigabitEthernet0.
ise/admin#
```

例 2

```
ise/admin# show cdp neighbors
CDP Neighbor: 000c297840e5
    Local Interface : GigabitEthernet0
    Device Type     : ISE-1141VM-K9
    Port            : eth0
    Address         : 172.23.90.114
    IPv6 Address    : 2001:420:54ff:4::458:1
CDP Neighbor: isexp-esw5
    Local Interface : GigabitEthernet0
    Device Type     : cisco WS-C3560E-24TD
    Port            : GigabitEthernet0/5
```

```
Address          : 172.23.90.45
IPv6 Address     : 2001:420:54ff:4::458:5
CDP Neighbor: 000c29e29926
  Local Interface : GigabitEthernet0
  Device Type    : ISE-1141VM-K9
  Port           : eth0
  Address        : 172.23.90.115
  IPv6 Address   : 2001:420:54ff:4::458:2
CDP Neighbor: 000c290fba98
  Local Interface : GigabitEthernet0
  Device Type    : ISE-1141VM-K9
  Port           : eth0
  Address        : 172.23.90.111
  IPv6 Address   : 2001:420:54ff:4::458:3
ise/admin#
```

show clock

システムソフトウェアクロックの曜日、月、日付、時間、時間帯、および年を表示するには、EXEC モードで **show clock** コマンドを使用します。

このコマンドには、キーワードおよび引数はありません。

show clock

コマンド デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード EXEC

コマンド履歴	リリース	変更内容
	2.0.0.306	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン 次の例の **show clock** の出力には、協定世界時（UTC）、グリニッジ標準時（GMT）、英国時間、またはズールー時間が含まれます。

例

```
ise/admin# show clock
Fri Aug 6 10:46:39 UTC 2010
ise/admin#
```

show container

Threat-Centric NAC アダプタと Wi-Fi 設定に関する情報を表示するには、EXEC モードで **show container** コマンドを使用します。

このコマンドの出力は、脆弱性評価スキャン、アダプタが作成された日時、アダプタの実行時間、アダプタの現在の状態に関する統計情報を提供します。コンテナ名またはIDに基づいて、各アダプタに関する詳細情報を表示することができます。

show container tc-nac {**adapters** | **all** | **inspect** {**container-id** *container-id* | **container-name** *container-name*} | **stats** {**container-id** *container-id* | **container-name** *container-name*}} | **wifi setup** **all**}

構文の説明

tc-nac	Threat-Centric NAC アダプタに関する情報を表示します。
wifi setup	Wi-Fi コンテナ設定情報を表示します。
all	TCNAC と併用すると、Cisco ISE で利用可能なすべてのアダプタ (コンテナ名や ID を含めて) を一覧表示します。 Wi-Fi 設定と併用すると、Wi-Fi コンテナ設定情報を表示します。
adapters	Cisco ISE で設定されている TC NAC アダプタを一覧表示します。コンテナ ID およびコンテナ名、アダプタが作成された日時、アダプタの実行時間、アダプタの現在の状態を一覧表示します。
inspect { container-id <i>container-id</i> container-name <i>container-name</i> }	特定のアダプタに関する詳細情報を一覧表示します。
stats { container-id <i>container-id</i> container-name <i>container-name</i> }	特定のアダプタに関する統計情報を提供します。
>	出力をファイルにリダイレクトします。

/

出力修飾子変数

- **begin** : 一致するパターン。最大 80 文字の英数字をサポートします。
- **count** : 出力の行数をカウントします。単語 **count** の後に数字を指定します。
| : **count** の出力修飾子変数。
- **end** : 一致する行で終了します。最大 80 文字の英数字をサポートします。
- **exclude** : 一致する行を除外します。最大 80 文字の英数字をサポートします。
- **include** : 一致する行を含めます。最大 80 文字の英数字をサポートします。
- **last** : 出力の最後の数行を表示します。単語 **last** の後に数字を指定します。80 行までの表示をサポートします。デフォルトは 10 行です。
| : **last** の出力修飾子変数。

コマンド デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード EXEC

コマンド履歴	リリース	変更内容
	2.2.0.470	このコマンドが導入されました。
	3.1	このコマンドに Wi-Fi 設定が含まれなくなりました。

使用上のガイドライン Threat-Centric NAC アダプタに関する情報を表示するには、**show container** コマンドを使用します。

例 1

```
ise/admin# show container tc-nac adapters
```

CONTAINER ID STATUS	IMAGE PORTS	COMMAND	CREATED NAMES
63b8904f41c6 Up 19 hours	irf-adapter-nexpose	"/opt/CSCOcpm/vaservi"	19 hours ago nexpose
8389f7e249cf Up 2 days	irf-adapter-tenable	"/opt/CSCOcpm/vaservi"	2 days ago tenable

```
ise/admin#
```

例 2

```
ise/admin# show container tc-nac all
```

CONTAINER ID	IMAGE	COMMAND	CREATED
63b8904f41c6	irf-adapter-nexpose	"/opt/CSCOcpm/vaservi"	19 hours ago
8389f7e249cf	irf-adapter-tenable	"/opt/CSCOcpm/vaservi"	2 days ago
41921c1539bf	irf-core-engine:2.2.6	"/bin/sh -c 'npm star"	3 days ago
c4f6ff3cf628	irf-rabbitmq:2.2.6	"/docker-entrypoint.s"	3 days ago
e682a5a5ad69	irf-mongo:2.2.6	"/entrypoint.sh mongo"	3 days ago

```
ise/admin#
```

例 3

```
ise/admin# show container tc-nac inspect container-name nexpose
[
{
  "Id": "63b8904f41c6ce2a58660d38eb3500104038e650e4e3365e21e0a536a1ba3044",
  "Created": "2016-09-22T11:38:03.146141316Z",
  "Path": "/opt/CSCOcpm/vaservice/nexposeadapter/bin/nexposeadaptercontrol.sh",
  "Args": [
    "start",
    "http://irf-core-engine-runtime:3000/api/adapter/instance/register",
    "07bc6aee-fb9f-4845-86cb-886c7c095188"
  ],
  "State": {
    "Status": "running",
    "Running": true,
    "Paused": false,
    "Restarting": false,
    "OOMKilled": false,
    "Dead": false,
    "Pid": 23433,
    "ExitCode": 0,
    "Error": "",
    "StartedAt": "2016-09-22T11:38:05.609439645Z",
    "FinishedAt": "0001-01-01T00:00:00Z"
  },
  "Image": "06ba3230bd64872b988f4506e7fffd8c8c6374c7ece285555ee1cc57743ea7e0",
  "ResolvConfPath":
"/opt/docker/runtime/containers/63b8904f41c6ce2a58660d38eb3500104038e650e4e3365e21e0a536a1ba3044/resolv.conf",
  "HostnamePath":
"/opt/docker/runtime/containers/63b8904f41c6ce2a58660d38eb3500104038e650e4e3365e21e0a536a1ba3044/hostname",
  "HostsPath":
"/opt/docker/runtime/containers/63b8904f41c6ce2a58660d38eb3500104038e650e4e3365e21e0a536a1ba3044/hosts",
  "LogPath":
"/opt/docker/runtime/containers/63b8904f41c6ce2a58660d38eb3500104038e650e4e3365e21e0a536a1ba3044/
63b8904f41c6ce2a58660d38eb3500104038e650e4e3365e21e0a536a1ba3044-json.log",
}
```

```

    "Name": "/nexpose",
    "RestartCount": 0,
    "Driver": "devicemapper",
    "ExecDriver": "native-0.2",
    "MountLabel": "",
    "ProcessLabel": "",
    "AppArmorProfile": "",
    "ExecIDs": [
        "d76578aa48118167d9d029037fcb2e56aa7dce8672b8991a736617a6d6879750"
    ],
    .
    .
    "NetworkSettings": {
        "Bridge": "",
        "SandboxID": "9873fb92f86e665039a6de15bfe057bc3fd341f7b39acedee57cbd89b3f56ce0",

        "HairpinMode": false,
        "LinkLocalIPv6Address": "",
        "LinkLocalIPv6PrefixLen": 0,
        "Ports": {},
        "SandboxKey": "/var/run/docker/netns/9873fb92f86e",
        "SecondaryIPAddresses": null,
        "SecondaryIPv6Addresses": null,
        "EndpointID": "",
        "Gateway": "",
        "GlobalIPv6Address": "",
        "GlobalIPv6PrefixLen": 0,
        "IPAddress": "",
        "IPPrefixLen": 0,
        "IPv6Gateway": "",
        "MacAddress": "",
        "Networks": {
            "irf-internal-nw": {
                "EndpointID":
"8999c12319144cfd66a4e99be40f7fbc228779e43f2a7f20c48867b8b3ca7a49",
                "Gateway": "169.254.1.1",
                "IPAddress": "169.254.1.6",
                "IPPrefixLen": 24,
                "IPv6Gateway": "",
                "GlobalIPv6Address": "",
                "GlobalIPv6PrefixLen": 0,
                "MacAddress": "02:42:a9:fe:01:06"
            }
        }
    }
}
]

```

例 4

```
ise/admin# show container tc-nac stats container-name nexpose
```

CONTAINER	CPU %	MEM USAGE / LIMIT	MEM %	NET
I/O	BLOCK I/O			
nexpose	0.07%	327.9 MB / 12.43 GB	2.64%	4.501
	MB / 2.446 MB	106.4 MB / 21.27 MB		

例 5

```
ise/admin# show container wifi setup all
```

CONTAINER ID	IMAGE	COMMAND	CREATED	
STATUS	PORTS	NAMES		
d51711744e7c	wifisetup:0.0.12	"/sbin/tini -- /usr/b"	6 days ago	Up
6 days		wifisetup-container		

show cpu

CPU 情報を表示するには、EXEC モードで **show cpu** コマンドを使用します。

Cisco ISE コンポーネントごとの CPU 使用率の概要を表示するには、EXEC モードで **show cpu usage** コマンドを使用します。このコマンドの出力は、コマンドが実行された時点の CPU 使用率のスナップショットを提供します。

show cpu > file-name

show cpu statistics

show cpu usage

構文の説明

>	出力をファイルにリダイレクトします。
<i>file-name</i>	リダイレクトするファイルの名前。
statistics	CPU 統計情報を表示します。
cpu usage	インストールされているアプリケーション (Cisco ISE) のコンポーネントごとの CPU 使用率を表示します。
/	出力修飾子変数 <ul style="list-style-type: none"> • begin : 一致するパターン。最大 80 文字の英数字をサポートします。 • count : 出力の行数をカウントします。単語 count の後に数字を指定します。 : count の出力修飾子変数。 • end : 一致する行で終了します。最大 80 文字の英数字をサポートします。 • exclude : 一致する行を除外します。最大 80 文字の英数字をサポートします。 • include : 一致する行を含めます。最大 80 文字の英数字をサポートします。 • last : 出力の最後の数行を表示します。単語 last の後に数字を指定します。80 行までの表示をサポートします。デフォルトは 10 行です。 : last の出力修飾子変数。

コマンド デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード EXEC

コマンド履歴	リリース	変更内容
	2.1.0.474	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン CPU 情報とその統計情報を表示するには、**show cpu** コマンドを使用します。

例 1

```
ise/admin# show cpu
processor: 0
model : Intel(R) Xeon(R) CPU           E5320 @ 1.86GHz
speed(MHz): 1861.914
cache size: 4096 KB
ise/admin#
```

例 2

```
ise/admin# show cpu statistics
user time:          265175
kernel time:       166835
idle time:         5356204
i/o wait time:    162676
irq time:          4055
ise/admin#
```

例 3

```
ise/admin# show cpu usage
```

ISE Function	% CPU Usage	CPU Time	Number of threads
Profiler Database	0.01	1:26.27	3
M&T Session Database	0.01	1:23.06	18
Certificate Authority Service	0.04	6:57.38	31
M&T Log Processor	0.09	15:44.23	60
ISE Indexing Engine	0.12	21:34.76	75
Database Listener	0.01	0:53.18	2
Database Server	0.36	62:48.64	64
processes			
Admin Webapp	0.04	6:46.68	53
Profiler	0.00	0:02.94	26
NSF Persistence Layer	0.05	8:09.70	46
Guest Services	0.00	0:00.32	5
Syslog Processor	0.00	0:12.79	3
Quartz Scheduler	0.05	9:08.80	29
RMI Services	0.00	0:05.98	10
Message Queue	0.00	0:43.99	4
BYOD Services	0.00	0:00.00	1
Admin Process JVM Threads	0.19	32:50.67	10
Miscellaneous services	0.17	30:30.47	3557
Identity Mapping Service	N/A		
SXP Engine Service	N/A		
Threat Centric NAC Docker Service	N/A		
Threat Centric NAC MongoDB Container	N/A		
Threat Centric NAC RabbitMQ Container	N/A		
Threat Centric NAC Core Engine Container	N/A		

show cpu

Vulnerability Assessment Database	N/A
Vulnerability Assessment Service	N/A

show crypto

ログインしている管理者とユーザーの公開キーおよび許可キーに関する情報を表示するには、**show crypto** コマンドを使用します。

show crypto authorized_keys

show crypto host-keys

show crypto key

構文の説明

authorized_keys	現在ログインしているユーザーの許可キーの情報を表示します。
host_keys	現在ログインしているユーザーのホストキーを表示します。
key	現在ログインしているユーザーのキーの情報を表示します。

コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード

EXEC

コマンド履歴

リリース	変更内容
2.0.0.306	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

現在ログインしているユーザーの許可キーとキーを表示するには、**show crypto** コマンドを使用します。

例 1

```
ise/admin# show crypto authorized_keys
Authorized keys for admin
ise/admin#
```

例 2

```
ise/admin# show crypto key
admin public key: ssh-rsa f8:7f:8a:79:44:b8:5d:5f:af:e1:63:b2:be:7a:fd:d4 admin@ise
ise/admin#
```

show disks

ディスクのファイルシステム情報を表示するには、EXEC モードで **show disks** コマンドを使用します。

show disks > *file-name*

構文の説明

>	出力をファイルにリダイレクトします。
<i>file-name</i>	リダイレクトするファイルの名前。
/	出力修飾子変数 <ul style="list-style-type: none"> • begin : 一致するパターン。最大 80 文字の英数字をサポートします。 • count : 出力の行数をカウントします。単語 count の後に数字を指定します。 : count の出力修飾子変数。 • end : 一致する行で終了します。最大 80 文字の英数字をサポートします。 • exclude : 一致する行を除外します。最大 80 文字の英数字をサポートします。 • include : 一致する行を含めます。最大 80 文字の英数字をサポートします。 • last : 出力の最後の数行を表示します。単語 last の後に数字を指定します。80 行までの表示をサポートします。デフォルトは 10 行です。 : last の出力修飾子変数。

コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード

EXEC

コマンド履歴

リリース	変更内容
2.0.0.306	このコマンドが導入されました。
3.2	filename 変数がサポートされなくなりました。

使用上のガイドライン

show disks コマンドは、ディスクファイルシステムを備えたプラットフォームでのみサポートされます。

例

```
ise/admin# show disks
Internal filesystems:
/ : 5% used ( 24124436 of 540283556)
/storedconfig : 7% used ( 5693 of 93327)
/tmp : 2% used ( 35960 of 1976268)
/boot : 4% used ( 17049 of 489992)
/dev/shm : 0% used ( 0 of 1943756)
  all internal filesystems have sufficient free space
ise/admin#
```



(注) Cisco ISE 3.0 では、localdisk パーティションは動的に割り当てられます。

show icmp-status

Internet Control Message Protocol (ICMP) エコー応答のコンフィギュレーション情報を表示するには、EXEC モードで **show icmp_status** コマンドを使用します。

show icmp_status > *file-name*

構文の説明

>	出力をファイルにリダイレクトします。
<i>file-name</i>	リダイレクトするファイルの名前。
/	出力修飾子コマンド <ul style="list-style-type: none"> • <i>begin</i> : 一致するパターン。最大 80 文字の英数字をサポートします。 • <i>count</i> : 出力の行数をカウントします。単語 <i>count</i> の後に数字を指定します。 <ul style="list-style-type: none"> • : <i>count</i> の出力修飾子コマンド。 • <i>end</i> : 一致する行で終了します。最大 80 文字の英数字をサポートします。 • <i>exclude</i> : 一致する行を除外します。最大 80 文字の英数字をサポートします。 • <i>include</i> : 一致する行を含めます。最大 80 文字の英数字をサポートします。 • <i>last</i> : 出力の最後の数行を表示します。単語 <i>last</i> の後に数字を指定します。80 行までの表示をサポートします。デフォルトは 10 行です。 <ul style="list-style-type: none"> • : <i>last</i> の出力修飾子コマンド。

コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード

EXEC

コマンド履歴

リリース	変更内容
2.0.0.306	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

Internet Control Message Protocol (ICMP) エコー応答のコンフィギュレーション情報を表示するには、**show icmp_status** コマンドを使用します。

例 1

```
ise/admin# show icmp_status
icmp echo response is turned on
ise/admin#
```

例 2

```
ise/admin# show icmp_status
icmp echo response is turned off
ise/admin#
```

show interface

IP に設定されているインターフェイスのユーザビリティステータスを表示するには、EXEC モードで **show interface** コマンドを使用します。

show interface > *file-name*

show interface GigabitEthernet {0-3}

構文の説明

>	出力をファイルにリダイレクトします。
<i>file-name</i>	インターフェイス情報をリダイレクトするファイルの名前。
GigabitEthernet	特定のギガビットイーサネットインターフェイスの情報を表示し
0-3	ギガビットイーサネット番号。使用できる可能性のある番号：0、1、2、3。
/	出力修飾子変数 <ul style="list-style-type: none"> • begin : 一致するパターン。最大 80 文字の英数字をサポートし • count : 出力の行数をカウントします。単語 count の後に数字を指定します。 • end : 一致する行で終了します。最大 80 文字の英数字をサポートします。 • exclude : 一致する行を除外します。最大 80 文字の英数字をサポートします。 • include : 一致する行を含めます。最大 80 文字の英数字をサポートします。 • last : 出力の最後の数行を表示します。単語 last の後に数字を指定します。80 行までの表示をサポートします。デフォルトは 10

コマンド デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード EXEC

コマンド履歴	リリース	変更内容
	2.0.0.306	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン **show interface GigabitEthernet 0** の出力では、インターフェイスに 3 つの IPv6 アドレスがあることがわかります。最初のインターネットアドレス (3ffe以降) は、ステートレス自動設定を使用した結果です。そのためには、IPv6 ルートアドバタイズメントを、そのサブネットでイ

ネーブルにする必要があります。次のアドレス (fe80で始まるアドレス) は、外部ホストからのスコープを持たないリンク ローカルアドレスです。IPv6 自動設定または DHCPv6 設定に関係なく、リンク ローカルアドレスは常に表示されます。最後のアドレス (2001で始まるアドレス) は、IPv6 DHCP サーバから取得された結果です。

例 1

```
ise/admin# show interface
eth0      Link encap:Ethernet  HWaddr 00:0C:29:6A:88:C4
          inet addr:172.23.90.113  Bcast:172.23.90.255  Mask:255.255.255.0
          inet6 addr: fe80::20c:29ff:fe6a:88c4/64 Scope:Link
          UP BROADCAST RUNNING MULTICAST  MTU:1500  Metric:1
          RX packets:48536 errors:0 dropped:0 overruns:0 frame:0
          TX packets:14152 errors:0 dropped:0 overruns:0 carrier:0
          collisions:0 txqueuelen:1000
          RX bytes:6507290 (6.2 MiB)  TX bytes:12443568 (11.8 MiB)
          Interrupt:59 Base address:0x2000
lo        Link encap:Local Loopback
          inet addr:127.0.0.1  Mask:255.0.0.0
          inet6 addr: ::1/128 Scope:Host
          UP LOOPBACK RUNNING  MTU:16436  Metric:1
          RX packets:1195025 errors:0 dropped:0 overruns:0 frame:0
          TX packets:1195025 errors:0 dropped:0 overruns:0 carrier:0
          collisions:0 txqueuelen:0
          RX bytes:649425800 (619.3 MiB)  TX bytes:649425800 (619.3 MiB)
sit0      Link encap:IPv6-in-IPv4
          NOARP  MTU:1480  Metric:1
          RX packets:0 errors:0 dropped:0 overruns:0 frame:0
          TX packets:0 errors:0 dropped:0 overruns:0 carrier:0
          collisions:0 txqueuelen:0
          RX bytes:0 (0.0 b)  TX bytes:0 (0.0 b)
ise/admin#
```

例 2

```
ise/admin# show interface GigabitEthernet 0
eth0      Link encap:Ethernet  HWaddr 00:0C:29:AF:DA:05
          inet addr:172.23.90.116  Bcast:172.23.90.255  Mask:255.255.255.0
          inet6 addr: 3ffe:302:11:2:20c:29ff:feaf:da05/64 Scope:Global
          inet6 addr: fe80::20c:29ff:feaf:da05/64 Scope:Link
          inet6 addr: 2001:558:ff10:870:8000:29ff:fe36:200/64 Scope:Global
          UP BROADCAST RUNNING MULTICAST  MTU:1500  Metric:1
          RX packets:77848 errors:0 dropped:0 overruns:0 frame:0
          TX packets:23131 errors:0 dropped:0 overruns:0 carrier:0
          collisions:0 txqueuelen:1000
          RX bytes:10699801 (10.2 MiB)  TX bytes:3448374 (3.2 MiB)
          Interrupt:59 Base address:0x2000
ise/admin#
```

show inventory

Cisco ISE アプライアンス モデルやシリアル番号など、ハードウェアインベントリに関する情報を表示するには、EXEC モードで **show inventory** コマンドを使用します。

show inventory > *file-name*

構文の説明

>	出力をファイルにリダイレクトします。
<i>file-name</i>	ハードウェア インベントリ情報をリダイレクトするファイルの名前。
/	出力修飾子変数 <ul style="list-style-type: none"> • begin : 一致するパターン。最大 80 文字の英数字をサポートします。 • count : 出力の行数をカウントします。単語 count の後に数字を入力します。 • end : 一致する行で終了します。最大 80 文字の英数字をサポートします。 • exclude : 一致する行を除外します。最大 80 文字の英数字をサポートします。 • include : 一致する行を含めます。最大 80 文字の英数字をサポートします。 • last : 出力の最後の数行を表示します。単語 last の後に数字を入力します。80 行までの表示をサポートします。デフォルトは 10 行です。

コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード

EXEC

コマンド履歴

リリース	変更内容
2.0.0.306	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

Cisco ISE アプライアンスの情報を表示するには、**show inventory** コマンドを使用します。

例

```
ise/admin# show inventory
NAME: "ISE-VM-K9          chassis", DESCR: "ISE-VM-K9          chassis"
PID: ISE-VM-K9          , VID: V01 , SN: H8JESGOFHGG
Total RAM Memory: 1035164 kB
CPU Core Count: 1
CPU 0: Model Info: Intel(R) Xeon(R) CPU          E5320 @ 1.86GHz
Hard Disk Count(*): 1
```

```
Disk 0: Device Name: /dev/sda
Disk 0: Capacity: 64.40 GB
Disk 0: Geometry: 255 heads 63 sectors/track 7832 cylinders
NIC Count: 1
NIC 0: Device Name: eth0
NIC 0: HW Address: 00:0C:29:6A:88:C4
NIC 0: Driver Descr: eth0: registered as PCnet/PCI II 79C970A
(*) Hard Disk Count may be Logical.
ise/admin#
```

show ip

IP ルート情報を表示するには、EXEC モードで **show ip** コマンドを使用します。

show ip route

構文の説明	route	IP ルート情報を表示します。
コマンド デフォルト	デフォルトの動作や値はありません。	
コマンド モード	EXEC	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	2.0.0.306	このコマンドが導入されました。
使用上のガイドライン	このコマンドは IP ルーティング テーブルを表示します。	

例

```
ise/admin# show ip route
Kernel IP routing table
Destination      Gateway         Genmask         Flags Metric Ref    Use Iface
172.21.79.0     0.0.0.0        255.255.255.0  U         0      0      0 eth0
0.0.0.0         172.21.79.1   0.0.0.0        UG        0      0      0 eth0
ise/admin#
```

show ipv6 route

IPv6 ルート情報を表示するには、EXEC モードで **show ipv6 route** コマンドを使用します。

show ipv6 route

コマンド デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード EXEC

コマンド履歴	リリース	変更内容
	2.0.0.306	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン このコマンドは、IPv6 ルーティング テーブルを表示します。

例 1

```
ise/admin# show ipv6 route
Destination          Gateway              Iface
-----
2001:DB8:cc00:1::/64  2001:DB8:cc00:1::1  eth0
ff02::1:2/128         ff02::1:2           eth0
ise/admin#
```

例 2

```
ise/admin# show ipv6 route
Destination          Gateway              Iface
-----
2001:db8::/64        ::                  eth0
2015:db8::/64        ::                  eth3
2020:db8::/64        2001:db8::5        eth0
default              2001:db8::5        eth0
ise/admin#
```

show logging

システムロギング (syslog) の状態および標準のシステムロギングバッファの内容を表示するには、EXEC モードで **show logging** コマンドを使用します。

show logging > *file-name*

show logging application *application-logfile-name*

show logging container tc-nac { **container-id** *container-id* [**log-name** *name-of-log-file* **tail**] | **container-name** *container-name* }

show logging internal

show logging system *system-logfile-name*

構文の説明

>	出力をファイルにリダイレクトします。
<i>file-name</i>	システム ログ情報をリダイレクトするファイルの名前。
application	アプリケーション ログを表示します。
<i>application-logfile-name</i>	アプリケーション ログ ファイルの名前。
container tc-nac	Threat Centric-NAC コンテナを表示します。
container-id <i>container-id</i> [log-name <i>name-of-log-file</i> tail]	指定されたコンテナ (TC-NACアダプタ) に関連するログファイルを示します。
container-name <i>container-name</i>	指定されたコンテナ (TC-NACアダプタ) に関連するログファイルを示します。
internal	syslog のコンフィギュレーションを表示します。
system	システムの syslog を表示します。
<i>system-logfile-name</i>	システム ログ ファイルの名前。
<i>system-file-name</i>	システム ログ ファイル名の名前。

出力修飾子変数

- **begin** : 一致するパターン。最大 80 文字の英数字をサポートします。
- **count** : 出力の行数をカウントします。単語 **count** の後に数字を入力します。
- **end** : 一致する行で終了します。最大 80 文字の英数字をサポートします。
- **exclude** : 一致する行を除外します。最大 80 文字の英数字をサポートします。
- **include** : 一致する行を含めます。最大 80 文字の英数字をサポートします。
- **last** : 出力の最後の数行を表示します。単語 **last** の後に数字を入力します。80 行までの表示をサポートします。デフォルトは 10 行です。

コマンドデフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンドモード EXEC

コマンド履歴	リリース	変更内容
	2.0.0.306	このコマンドが導入されました。
	2.7	表示環境が Unix の less コマンドに変更されました。

使用上のガイドライン このコマンドは、**syslog** エラーおよびイベントロギングの状態を表示します。この状態には、ホストアドレス、ロギングがイネーブルになっているロギングの宛先（コンソール、モニター、バッファ、またはホスト）が含まれます。このコマンドを実行すると、コンテンツは **Unix** の **less** 環境で開かれます。「H」を入力すると、検索および移動コマンドが表示されます。

例 1

```
ise/admin# show logging system
      0 Feb 25 2013 15:57:43 tallylog
    1781 Feb 26 2013 02:01:02 maillog
    4690 Feb 26 2013 02:40:01 cron
      0 Feb 25 2013 15:56:54 spooler
      0 Feb 25 2013 16:10:03 boot.log
      0 Feb 25 2013 16:00:03 bttmp
    38784 Feb 26 2013 02:19:48 wtmp
    16032 Feb 26 2013 02:19:47 faillog
    32947 Feb 26 2013 00:38:02 dmesg
    63738 Feb 26 2013 02:19:49 messages
    146292 Feb 26 2013 02:19:48 lastlog
    13877 Feb 26 2013 01:48:32 rpmpkgs
    129371 Feb 26 2013 02:40:22 secure
    27521 Feb 25 2013 16:10:02 anaconda.syslog
```

```

345031 Feb 25 2013 16:10:02 anaconda.log
0 Jul 28 2011 00:56:37 mail/statistics
1272479 Feb 26 2013 02:42:52 ade/ADE.log
567306 Feb 26 2013 02:40:22 audit/audit.log
24928 Feb 26 2013 02:40:01 sa/sa26
0 Feb 25 2013 16:01:40 pm/suspend.log
ise/admin#

```

例 2

Cisco ISE ノードのアプリケーションログファイルを表示するには、次のコマンドを使用します。

```

ise/admin# show logging application
61 Oct 07 2016 03:02:43 dbalert.log
4569 Oct 07 2016 03:21:18 ad_agent.log
0 Oct 07 2016 03:13:18 ise-elasticsearch_index_indexing_slowlog.log
0 Oct 07 2016 03:02:59 edf.log
124 Oct 07 2016 03:21:59 diagnostics.log
8182 Oct 07 2016 03:26:45 caservice.log
426 Oct 07 2016 03:19:17 redis.log
1056 Oct 07 2016 03:13:07 caservice_bootstrap.log
49637 Oct 07 2016 03:27:40 passiveid-mgmt.log
0 Oct 07 2016 03:02:59 passiveid.log
0 Oct 07 2016 03:13:18 ise-elasticsearch_index_search_slowlog.log
14152 Oct 07 2016 03:26:03 collector.log
0 Oct 07 2016 03:02:59 idc-endpoint.log
134 Oct 07 2016 03:22:34 oosp.log
0 Oct 07 2016 03:02:59 dbconn.log
0 Oct 07 2016 03:02:59 idc-kerberos.log
100958 Oct 07 2016 03:24:43 crypto.log
0 Oct 07 2016 03:02:59 idc-syslog.log
0 Oct 07 2016 03:02:59 replication.log.2016-10-04.1
10394 Oct 07 2016 03:24:01 guest.log
0 Oct 07 2016 03:02:59 guest.log.2016-10-07.1
0 Oct 07 2016 03:02:59 vcs.log.2016-10-04.1
288624 Oct 07 2016 03:27:25 ise-psc.log
ise/admin#

```

show logins

システムログインの状態を表示するには、EXECモードで**show logins** コマンドを使用します。

show logins cli

構文の説明	cli	cli ログイン履歴を一覧表示します。
コマンド デフォルト	デフォルトの動作や値はありません。	
コマンド モード	EXEC	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	2.0.0.306	このコマンドが導入されました。
使用上のガイドライン	cli キーワードを指定する必要があります。指定しない場合、エラーが発生します。	

例

```
ise/admin# show logins cli
admin pts/0 10.77.137.60 Fri Aug 6 09:45 still logged in
admin pts/0 10.77.137.60 Fri Aug 6 08:56 - 09:30 (00:33)
admin pts/0 10.77.137.60 Fri Aug 6 07:17 - 08:43 (01:26)
reboot system boot 2.6.18-164.el5PA Thu Aug 5 18:17 (17:49)
admin tty1 Thu Aug 5 18:15 - down (00:00)
reboot system boot 2.6.18-164.el5PA Thu Aug 5 18:09 (00:06)
setup tty1 Thu Aug 5 17:43 - 18:07 (00:24)
reboot system boot 2.6.18-164.el5PA Thu Aug 5 16:05 (02:02)
wtmp begins Thu Aug 5 16:05:36 2010
ise/admin#
```

show memory

すべての実行プロセスのメモリ使用量を表示するには、EXEC モードで **show memory** コマンドを使用します。

このコマンドには、キーワードおよび引数はありません。

show memory

コマンド デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード EXEC

コマンド履歴	リリース	変更内容
	2.0.0.306	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン 使用メモリを表示するには、**show memory** コマンドを使用します。

例

```
ise/admin# show memory
total memory: 4394380 kB
free memory: 206060 kB
cached: 1111752 kB
swap-cached: 9072 kB

output of free command:
total used free shared buffers cached
Mem: 4394380 4188576 205804 0 147504 1111748
-/+ buffers/cache: 2929324 1465056
Swap: 8185108 192728 7992380
ise/admin#
```

show ntp

Network Translation Protocol (NTP) 関連付けのステータスを表示するには、EXEC モードで **show ntp** コマンドを使用します。

このコマンドには、キーワードおよび引数はありません。

show ntp

コマンドデフォルト	デフォルトの動作や値はありません。	
コマンドモード	EXEC	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	2.0.0.306	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン Network Translation Protocol (NTP) 関連付けを表示するには、**show ntp** コマンドを使用します。

例

```
ise-az2/iseadmin#show ntp
Configured NTP Servers:
  xx.x.xxx.x
  0.north-america.pool.ntp.org
  1.north-america.pool.ntp.org
Reference ID      : 62BFD502 (mail.example.com)
Stratum          : 2
Ref time (UTC)   : Thu May 19 15:49:40 2022
System time      : 0.000000384 seconds fast of NTP time
Last offset      : -0.000422698 seconds
RMS offset       : 0.000422698 seconds
Frequency        : 7.323 ppm slow
Residual freq    : +2.728 ppm
Skew             : 0.352 ppm
Root delay       : 0.090078361 seconds
Root dispersion  : 0.002209879 seconds
Update interval  : 2.1 seconds
Leap status      : Normal

210 Number of sources = 3
MS Name/IP address      Stratum Poll Reach LastRx Last sample
=====
^? ns-dmz.demo.local    0  7  0  -  +0ns[ +0ns] +/-  0ns
^+ lofn.fancube.com     2  6  17  45 +5381us[+4959us] +/-  67ms
^* mail.intrax.com      1  6  17  44 -3730us[-4153us] +/-  47ms

M indicates the mode of the source.
^ server, = peer, # local reference clock.

S indicates the state of the sources.
* Current time source, + Candidate, x False ticker, ? Connectivity lost, ~ Too much
variability

Warning: Output results may conflict during periods of changing synchronization.
```

show ports

アクティブなポートをリッスンするすべてのプロセスに関する情報を表示するには、EXEC モードで **show ports** コマンドを使用します。

show ports > *file-name*

構文の説明

>	出力をファイルにリダイレクトします。
<i>file-name</i>	リダイレクトするファイルの名前。
\	出力修飾子変数 <ul style="list-style-type: none"> • begin : 一致するパターン。最大 80 文字の英数字をサポート • count : 出力の行数をカウントします。単語 count の後に数字 : count の出力修飾子変数。 • end : 一致する行で終了します。最大 80 文字の英数字をサポート • exclude : 一致する行を除外します。最大 80 文字の英数字をサポート • include : 一致する行を含めます。最大 80 文字の英数字をサポート • last : 出力の最後の数行を表示します。単語 last の後に数字 : last の出力修飾子変数。

コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード

EXEC

コマンド履歴

リリース	変更内容
2.0.0.306	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

show ports コマンドを実行する場合、ポートがアクティブなセッションに関連付けられている必要があります。

例

```
ise/admin# show ports
Process : java (22648)
  tcp: 0.0.0.0:9024, 127.0.0.1:2020, 0.0.0.0:9060, 0.0.0.0:37252, 127.0.0.1:8005, 0.0.0.0:9990, 0.0.0.0:8009, 0.0.0.0:8905, 0.0.0.0:5514, 0.0.0.0:1099, 0.0.0.0:61616, 0.0.0.0:80, 127.0.0.1:8888, 0.0.0.0:9080, 0.0.0.0:62424, 0.0.0.0:8443, 0.0.0.0:443, 0.0.0.0:8444
  udp: 172.21.79.91:1812, 172.21.79.91:1813, 172.21.79.91:1700, 0.0.0.0:48425
```

```
, 172.21.79.91:8905, 172.21.79.91:3799, 0.0.0.0:54104, 172.21.79.91:57696, 172.2
1.79.91:1645, 172.21.79.91:1646
Process : timestenrepd (21516)
      tcp: 127.0.0.1:56513, 0.0.0.0:51312
Process : timestensubd (21421)
      tcp: 127.0.0.1:50598
Process : rpc.statd (3042)
      tcp: 0.0.0.0:680
      udp: 0.0.0.0:674, 0.0.0.0:677
Process : ttcsrvr (21425)
      tcp: 0.0.0.0:53385, 127.0.0.1:49293
Process : timestensubd (21420)
      tcp: 127.0.0.1:51370
Process : redis-server (21535)
      tcp: 0.0.0.0:6379
Process : portmap (2999)
      tcp: 0.0.0.0:111
      udp: 0.0.0.0:111
Process : Decap_main (22728)
--More--
```

show process

アクティブなプロセスに関する情報を表示するには、EXEC モードで **show process** コマンドを使用します。

show process > *file-name*

構文の説明

>	出力をファイルにリダイレクトします。
<i>file-name</i>	リダイレクトするファイルの名前。
/	(任意)。出力修飾子変数 <ul style="list-style-type: none"> • begin : 一致するパターン。最大 80 文字の英数字をサポートします。 • count : 出力の行数をカウントします。単語 count の後に数字を指定します。 • end : 一致する行で終了します。最大 80 文字の英数字をサポートします。 • exclude : 一致する行を除外します。最大 80 文字の英数字をサポートします。 • include : 一致する行を含めます。最大 80 文字の英数字をサポートします。 • last : 出力の最後の数行を表示します。単語 last の後に数字を指定します。80 行までの表示をサポートします。デフォルトは 10 行です。

コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード

EXEC

コマンド履歴

リリース	変更内容
2.0.0.306	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

表 1: **show process** のフィールドの説明

フィールド	説明
USER	ログインしたユーザ。
PID	プロセス ID。
TIME	コマンドが最後に使用された時刻。
TT	プロセスを制御する端末。

フィールド	説明
COMMAND	使用されたプロセスまたはコマンドのタイプ。

例

```

ise/admin# show process
USER      PID      TIME TT      COMMAND
root      1 00:00:02 ?      init
root      2 00:00:00 ?      migration/0
root      3 00:00:00 ?      ksoftirqd/0
root      4 00:00:00 ?      watchdog/0
root      5 00:00:00 ?      events/0
root      6 00:00:00 ?      khelper
root      7 00:00:00 ?      kthread
root      10 00:00:01 ?      kblockd/0
root      11 00:00:00 ?      kacpid
root      170 00:00:00 ?      cqueue/0
root      173 00:00:00 ?      khubd
root      175 00:00:00 ?      kseriod
root      239 00:00:32 ?      kswapd0
root      240 00:00:00 ?      aio/0
root      458 00:00:00 ?      kpsmoused
root      488 00:00:00 ?      mpt_poll_0
root      489 00:00:00 ?      scsi_eh_0
root      492 00:00:00 ?      ata/0
root      493 00:00:00 ?      ata_aux
root      500 00:00:00 ?      kstriped
root      509 00:00:07 ?      kjournald
root      536 00:00:00 ?      kauditd
root      569 00:00:00 ?      udevd
root      1663 00:00:00 ?      kmpathd/0
root      1664 00:00:00 ?      kmpath_handlerd
root      1691 00:00:00 ?      kjournald
root      1693 00:00:00 ?      kjournald
root      1695 00:00:00 ?      kjournald
root      1697 00:00:00 ?      kjournald
root      2284 00:00:00 ?      auditd
root      2286 00:00:00 ?      audispd
root      2318 00:00:10 ?      debugd
rpc      2350 00:00:00 ?      portmap
root      2381 00:00:00 ?      rpciod/0
--More--
ise/admin#

```

show repository

リポジトリのファイルの内容を表示するには、EXEC モードで **show repository** コマンドを使用します。

show repository *repository-name*

構文の説明	<i>repository-name</i>	内容を表示するリポジトリの名前。30文字までの英数字で指定し
コマンド デフォルト	デフォルトの動作や値はありません。	
コマンド モード	EXEC	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	2.0.0.306	このコマンドが導入されました。
使用上のガイドライン	リポジトリの内容を表示するには、 show repository コマンドを使用します。	

例

```
ise/admin# show repository myrepository
back1.tar.gpg
back2.tar.gpg
ise/admin#
```



(注) SFTP リポジトリの PKI 認証を有効にしている場合は、リポジトリの公開キーを ISE GUI からだけでなく ISE CLI から生成する必要があります。SFTP リポジトリが ISE GUI から設定されている場合、Cisco ISE の公開キーはルートユーザーに対してのみ生成され、管理者ユーザー (CLI からすべてのコマンドを実行できるユーザー) に対しては生成されません。次の手順に従って、ISE CLI から公開キーを確認および設定します。

1. 暗号キーが生成されているかどうかを確認します。次のコマンドの出力が空の場合は、暗号キーが生成されていないことを意味します。

```
ise24/admin# show crypto key
```

2. したがって、CLI EXEC モードから、コマンド **crypto key generate rsa passphrase <secretkey>** を使用してキーを生成します。

3. 以下から、暗号鍵が正常に生成されたことを確認できます。

```
ise24/admin# show crypto key
admin public key: ssh-rsa SHA256:eEziR/ARPyFo1WptgI+y5WNjGIrgfPmEpEswVY7Qjb0
admin@ise24
```

4. この後、管理者は、コマンド **crypto key export <sample-name> repository <another-repository-name>** を使用して、「admin」ユーザーの公開キーをエクスポートする必要があります。
5. 次に、<another-repository-name> に保存されているファイルを開き、それを SFTP サーバーの **/home/<username>/ssh/authorized_keys** フォルダに追加します。

show restore

復元履歴と復元のステータスを表示するには、EXEC モードで **show restore** コマンドを使用します。

show restore {history | status}

構文の説明

history	システムの復元履歴を表示します。
status	システムの復元の状態を表示します。

コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード

EXEC

コマンド履歴

リリース	変更内容
2.0.0.306	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン 例

```
ise/admin# show restore history
Wed Apr 10 03:32:24 PDT 2013: restore mybackup-CFG-130410-0228.tar.gpg from repository
myrepository: success
Wed Apr 10 03:45:19 PDT 2013: restore mybackup1-OPS-130410-0302.tar.gpg from repository
myrepository: success
ise/admin#
ise/admin# show restore status
%% Configuration restore status
%% -----
% No data found. Try 'show restore history' or ISE operation audit report
%% Operation restore status
%% -----
% No data found. Try 'show restore history' or ISE operation audit report
ise/admin#
```

show running-config

現在の実行コンフィギュレーションファイルまたはコンフィギュレーションの内容を表示するには、EXEC モードで **show running-config** コマンドを使用します。

このコマンドには、キーワードおよび引数はありません。

show running-config

コマンドデフォルト	なし	
コマンドモード	EXEC	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	2.0.0.306	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン **show running-config** コマンドは、すべてのスタートアップ コンフィギュレーション情報を表示します。

例

```
ise/admin# show running-config
Generating configuration...
!
hostname ise
!
ip domain-name cisco.com
!
interface GigabitEthernet 0
 ip address 172.23.90.113 255.255.255.0
 ipv6 address autoconfig
!
ip name-server 171.70.168.183
!
ip default-gateway 172.23.90.1
!
clock timezone UTC
!
ntp server time.nist.gov
!
username admin password hash $1$JbbHvKVG$xMZ/XL4tH15Knf.FfcZZr. role admin
!
service sshd
!
password-policy
 lower-case-required
 upper-case-required
 digit-required
 no-username
 disable-cisco-passwords
 min-password-length 6
!
logging localhost
logging loglevel 6
```

```
!  
cdp timer 60  
cdp holdtime 180  
cdp run GigabitEthernet 0  
!  
icmp echo on  
!  
ise/admin#
```

show snmp engineid

デフォルトの、または設定したエンジン ID を表示するには、EXEC モードで **show snmp engineid** コマンドを使用します。このコマンドは、デバイスで設定されたローカル SNMP エンジンおよびすべてのリモート エンジンの ID を表示します。

show snmp engineid

コマンド デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード EXEC

コマンド履歴	リリース	変更内容
	2.0.0.306	このコマンドが導入されました。
	3.1	コマンドが show snmp engineid から show snmp-server engineid に更新されました。

例

```
ise/admin# show snmp engineid
Local SNMP EngineID: 0x1234567
```

```
ise/admin#
```

show snmp user

定義されている snmp ユーザーのリストを表示するには、EXEC モードで **show snmp user** コマンドを使用します。

show snmp user

コマンド デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード EXEC

コマンド履歴	リリース	変更内容
	2.0.0.306	このコマンドが導入されました。
	3.1	コマンドが show snmp user から show snmp-server user に更新されました。

例

```
ise/admin# show snmp user
User: snmp3
  EngineID: 80001f88044b4951504a375248374c55
  Auth Protocol: sha
  Priv Protocol: aes-128

ise/admin#
```


show startup-config

スタートアップ コンフィギュレーション ファイルまたはコンフィギュレーションの内容を表示するには、EXEC モードで **show startup-config** コマンドを使用します。

このコマンドには、キーワードおよび引数はありません。

show startup-config

コマンドデフォルト	なし	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	2.0.0.306	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン **show startup-config** コマンドは、すべてのスタートアップ コンフィギュレーション情報を表示します。

例

```
ise/admin# show startup-config
!
hostname ise
!
ip domain-name cisco.com
!
interface GigabitEthernet 0
 ip address 172.23.90.113 255.255.255.0
 ipv6 address autoconfig
!
ip name-server 171.70.168.183
!
ip default-gateway 172.23.90.1
!
clock timezone UTC
!
ntp server time.nist.gov
!
username admin password hash $1$JbbHvKVG$xMZ/XL4tH15Knf.FfcZzr. role admin
!
service sshd
!
password-policy
 lower-case-required
 upper-case-required
 digit-required
 no-username
 disable-cisco-passwords
 min-password-length 6
!
logging localhost
logging loglevel 6
!
cdp timer 60
cdp holdtime 180
cdp run GigabitEthernet 0
```

show startup-config

```
!  
icmp echo on  
!  
ise/admin#
```

show tech-support

電子メールなどのテクニカルサポート情報を表示するには、EXEC モードで **show tech-support** コマンドを使用します。

show tech-support > *file-name*

show tech-support file *file-name*

構文の説明	
	>
	出力をファイルにリダイレクトします。
	file
	任意のテクニカル サポート データをファイルとしてローカルに保存します。
	<i>file-name</i>
	テクニカルサポート データを保存するファイル名。最大 80 文字をサポートします。

コマンドデフォルト パスワードやその他のセキュリティ情報は、出力には表示されません。

コマンドモード EXEC

コマンド履歴	リリース	変更内容
	2.0.0.306	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン **show tech-support** コマンドは、トラブルシューティングの目的で、Cisco ISE サーバーに関する大量の情報を収集するのに役立ちます。問題を報告するときに、テクニカルサポートの担当者に出力を提供します。

例

```
ise/admin# show tech-support
*****
Displaying ISE version ...
*****
Cisco Identity Services Engine
-----
Version       : 1.3.0.862
Build Date    : Tue Oct 14 19:02:08 2014
Install Date  : Wed Oct 15 09:08:53 2014

*****
Displaying Clock ...
*****
Tue Oct 21 11:24:08 IST 2014

*****
Displaying UDI ...
*****
ISE-VM-K9
```

```

*****
Displaying ISE application status ...
*****
ISE PROCESS NAME                STATE                PROCESS ID
--More--
(prompt Spacebar to continue)
ise/admin#

```

例

```

ise/admin# show tech-support
*****
Displaying ISE version ...
*****
Cisco Identity Services Engine
-----
Version      : 1.4.0.205
Build Date   : Tue 03 Mar 2015 05:37:10 AM UTC
Install Date : Tue 03 Mar 2015 08:25:37 PM UTC

```

```

*****
Displaying Clock ...
*****
Mon Mar 16 03:51:35 UTC 2015

```

```

*****
Displaying UDI ...
*****
ISE-VM-K9

```

```

*****
Displaying ISE application status ...
*****
ISE PROCESS NAME                STATE                PROCESS ID
--More--
(prompt Spacebar to continue)
ise/admin#

```

show terminal

端末コンフィギュレーションパラメータの設定に関する情報を取得するには、EXECモードで **show terminal** コマンドを使用します。

このコマンドには、キーワードおよび引数はありません。

show terminal

コマンドデフォルト	デフォルトの動作や値はありません。	
コマンドモード	EXEC	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	2.0.0.306	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン 次の表では、**show terminal** 出力のフィールドについて説明します。

表 2: **show terminal** のフィールドの説明

フィールド	説明
TTY: /dev/pts/0	端末のタイプに対する標準の出力を表示します。
Type: "vt100"	現在使用されている端末のタイプ。
Length: 27 lines	端末ディスプレイの長さ。
Width: 80 columns	端末ディスプレイの文字カラムの幅。
Session Timeout: 30 minutes	セッションで、接続を終了するまでの時間（単位：分）。

例

```
ise/admin# show terminal
TTY: /dev/pts/0 Type: "vt100"
Length: 27 lines, Width: 80 columns
Session Timeout: 30 minutes
ise/admin#
```

show timezone

システムに設定されている時間帯を表示するには、EXEC モードで **show timezone** コマンドを使用します。

このコマンドには、キーワードおよび引数はありません。

show timezone

このコマンドには、キーワードおよび引数はありません。

コマンド デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード EXEC

コマンド履歴	リリース	変更内容
	2.0.0.306	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン 例

```
ise/admin# show timezone
UTC
ise/admin#
```

show timezones

選択可能な時間帯のリストを取得するには、EXEC モードで **show timezones** コマンドを使用します。

このコマンドには、キーワードおよび引数はありません。

show timezones

コマンド デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード EXEC

コマンド履歴	リリース	変更内容
	2.0.0.306	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン Cisco ISE サーバーで使用可能な時間帯の例については、「clock timezone」の項を参照してください。

例

```
ise/admin# show timezones
Africa/Cairo
Africa/Banjul
Africa/Nouakchott
Africa/Gaborone
Africa/Bangui
Africa/Malabo
Africa/Lusaka
Africa/Conakry
Africa/Freetown
Africa/Bamako
--More--
(press Spacebar to continue)
ise/admin#
```

show udi

Cisco ISE アプライアンスの固有デバイス識別子 (UDI) に関する情報を表示するには、EXEC モードで **show udi** コマンドを使用します。

このコマンドには、キーワードおよび引数はありません。

show udi

コマンド デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード EXEC

コマンド履歴	リリース	変更内容
	2.0.0.306	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン 例 1

```
ise/admin# show udi
SPID: ISE-3415-K9
VPID: V01
Serial: LAB12345678
ise/admin#
```

例 2

次の出力は、VMware サーバーで **show udi** コマンドを実行したときに表示されます。

```
ise/admin# show udi
SPID: ISE-VM-K9
VPID: V01
Serial: 5C79C84ML9H
ise/admin#
```


show uptime

Cisco ISE サーバーが最後にリブートされてからの実行時間を表示するには、EXEC モードで **show uptime** コマンドを使用します。

show uptime > *file-name*

構文の説明

>	出力をファイルにリダイレクトします。
<i>file-name</i>	リダイレクトするファイルの名前。
/	出力修飾子変数 <ul style="list-style-type: none"> • begin : 一致するパターン。最大 80 文字の英数字をサポートします。 • count : 出力の行数をカウントします。単語 count の後に数字を指定します。 • end : 一致する行で終了します。最大 80 文字の英数字をサポートします。 • exclude : 一致する行を除外します。最大 80 文字の英数字をサポートします。 • include : 一致する行を含めます。最大 80 文字の英数字をサポートします。 • last : 出力の最後の数行を表示します。単語 last の後に数字を指定します。80 行までの表示をサポートします。デフォルトは 10 行です。

コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード

EXEC

コマンド履歴

リリース	変更内容
2.0.0.306	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

この **show uptime** を使用して、Cisco ISE サーバーが最後にリブートされてからの実行時間を確認します。

例

```
ise/admin# show uptime
3 day(s), 18:55:02
ise/admin#
```

show users

Cisco ISE サーバーにログインしているユーザーの一覧を表示するには、EXEC モードで **show users** コマンドを使用します。

show users > *file-name*

構文の説明

>	出力をファイルにリダイレクトします。
<i>file-name</i>	リダイレクトするファイルの名前。
/	出力修飾子変数 <ul style="list-style-type: none"> • begin : 一致するパターン。最大 80 文字の英数字をサポートします。 • count : 出力の行数をカウントします。単語 count の後に数字を指定します。 • end : 一致する行で終了します。最大 80 文字の英数字をサポートします。 • exclude : 一致する行を除外します。最大 80 文字の英数字をサポートします。 • include : 一致する行を含めます。最大 80 文字の英数字をサポートします。 • last : 出力の最後の数行を表示します。単語 last の後に数字を指定します。80 行までの表示をサポートします。デフォルトは 10 行です。

コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード

EXEC

コマンド履歴

リリース	変更内容
2.0.0.306	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

この **show users** コマンドは、Cisco ISE サーバーにログインしているユーザーの一覧を確認する場合に使用します。

例

```
ise/admin# show users
USERNAME      ROLE   HOST                TTY   LOGIN DATETIME
admin         Admin  10.77.202.52        pts/0 Tue Feb 26 20:36:41 2013
-----
DETACHED SESSIONS:
-----
```

```
USERNAME          ROLE          STARTDATE
% No disconnected user sessions present
ise/admin#
```

show version

システムのソフトウェアバージョンに関する情報およびソフトウェアのインストール情報を表示するには、EXEC モードで **show version** コマンドを使用します。

show version > *file-name*

show version history

構文の説明

>	出力をファイルにリダイレクトします。
<i>file-name</i>	リダイレクトするファイルの名前。
history	ソフトウェア バージョンの履歴情報を示します。
/	出力修飾子変数 <ul style="list-style-type: none"> • begin : 一致するパターン。最大 80 文字の英数字をサポートします。 • count : 出力の行数をカウントします。単語 count の後に数字を指定します。 • end : 一致する行で終了します。最大 80 文字の英数字をサポートします。 • exclude : 一致する行を除外します。最大 80 文字の英数字をサポートします。 • include : 一致する行を含めます。最大 80 文字の英数字をサポートします。 • last : 出力の最後の数行を表示します。単語 last の後に数字を指定します。80 行までの表示をサポートします。デフォルトは 10 行です。

コマンド デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード EXEC

コマンド履歴

リリース	変更内容
2.0.0.306	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン このコマンドは、Cisco ISE サーバーで動作している Cisco ADE-OS ソフトウェアに関するバージョン情報を表示し、Cisco ISE のバージョンも表示します。

例 1

```
ise/admin# show version
```

```
Cisco Application Deployment Engine OS Release: 3.0
ADE-OS Build Version: 3.0.3.030
ADE-OS System Architecture: x86_64
```

```
Copyright (c) 2005-2014 by Cisco Systems, Inc.
All rights reserved.
Hostname: docs-ise-23-lnx
```

```
Version information of installed applications
-----
```

```
Cisco Identity Services Engine
-----
```

```
Version      : 2.3.0.297
Build Date   : Mon Jul 24 18:51:29 2017
Install Date : Wed Jul 26 13:59:41 2017
```

```
ise/admin#
```

例 2

```
ise/admin# show version history
-----
```

```
Install Date: Wed Jul 26 19:02:13 UTC 2017
Application: ise
Version: 2.3.0.297
Install type: Application Install
Bundle filename: ise.tar.gz
Repository: SystemDefaultPkgRepos
ise/admin#
```

show version

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。